

『あいさつで笑顔を』

日野中学校 1年 小西 颯祐

ぼくは、社会を明るくするためには、あいさつが大切だと思います。あいさつは、自分も相手も気持ちが明るく笑顔になる一つの方法だと思うからです。あいさつの中にも、自分から相手に気持ちを伝えるものがたくさんあります。「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」は、心を近づけるためのあいさつ。「ありがとう」「ごちそうさま」は、相手へ感謝の気持ちを伝えられるあいさつ。「ごめんなさい」「すみません」は、仲直りがしたいときの謝りたい気持ちを伝えるあいさつ。これらは、自分の気持ちを相手に伝えるための方法だとぼくは、思います。このような簡単なことをみんなが、していくと、ぼくは差別などがなくなり、社会は明るくなると思います。

ぼくが今、通っているサッカーチームは、とてもあいさつを大切にしています。「あいさつをするのは、将来の社会で礼儀正しく生きていけるようにするため」とコーチに教えてもらいました。初めは、「そうなんだ」くらいに思っていたが、今は「本当に大切だな」と思っています。なぜ、そのように思えるようになったかという、練習の始まりや終わりに、コーチやチームメイトにあいさつすることを続けてきたことで、はじめは距離のあった人達とも今は仲良くなることのできたからです。その他にも、サッカーの練習場へ送ってしてくれるおばあちゃんやお父さん、お母さんに、自然に「ありがとう」という感謝の気持ちのあいさつを伝えられるようになったからです。またコーチから「目を見てあいさつしなさい」と注意されたことで今までぼくは、気持ちのこもったあいさつができていなかったことにも気付くことができました。コーチに注意された後は、もっと自分の気持ちを伝えられるように、目を見てあいさつすることをしてきました。これからも、ていねいなあいさつをすることで人との心の距離を近づけたり、自分の気持ちを相手にしっかりと届けられるようにしていきたいと思えます。それが、コーチの言っていた「将来の社会で礼儀正しく生きていけるようにするため」につながると思うからです。

そのことからぼくは、楽しく学校生活を送るために朝早くから学校に登校してくる生徒に委員会の人や先生方が明るくあいさつをする「あいさつ運動」という取り組みに積極的に取り組むようにしました。サッカーチームでコーチに注意されるまではあいさつをしてもらえるのがあたりまえのようになっていたのですが、今は「あいさつ運動」のような少しの取り組みでぼく達は明るく元気になっていることに気付くようになりました。ぼくは以前までは、一人であいさつをするのが恥ずかしく苦手で、相手と同じ言葉をくり返すのが精一杯でした。ですがそんなぼくの心を動かしたのがサッカーチームのコーチの言葉でした。このコ

一チの一言で、以前まで恥ずかしく苦手だったあいさつを相手の目を見て大きな声であいさつできるようになりました。なので今度は、ぼくが社会を明るく出来るように、できるだけ多くの人に声をかけてみんなを元気づけるように「あいさつ運動」を行い知らない人でもみんなが心のきよりを近づけるようにしたいです。

ぼくは、あいさつの仕方で、人のつながりが強くなることを実感しました。自分の気持ちの良いあいさつをしてきて、相手が不快に思うことはないはずで、そして、気持ちの良いあいさつをして自分が損することはありませんでした。また、あいさつには、たくさんの種類があり、多くの意味があり、いろいろな場面で使うことが出来ます。一言でみんなを笑顔にできるあいさつは「笑顔の合言葉」とも言えると思います。この「笑顔の合言葉」は、学校だけでなく毎日の日常生活、社会でも使っていくことができます。あいさつをしてだれかを勇気づけると、自分にも勇気がつきだれでも笑顔を届けるあいさつができるというメリットもあります。このようなことを一人一人が行って、次につなげていけば、いつかは、いろいろな人達と関わり合えると思います。あいさつを広げていくためにも一人一人が積極的に行動することが大切だと思います。みんなが笑顔になれば気持ちが伝え合えれば少しでもトラブルは減り、社会を明るくすることができるようになると思いました。